

生活支援体制整備事業について

2022年3月15日 於：吉川市

公益財団法人さわやか福祉財団 岡野貴代



1

・助け合いが必要となる背景

注：本資料は2022年3月15日に開催されました第4回きよみ野地区地域
支え合い会議において公益財団法人さわやか福祉財団の岡野先生のご講演
資料を許可を頂き掲載しております。

全国の将来推計人口と サービス担い手の不足

■ 今後の生活支援ニーズの拡大と人材不足

◎ 今後、生活支援ニーズは拡大していく

予防給付の対象者は、身体介護ではなく、調理・買い物・洗濯・掃除等の生活支援を必要とするケースが大半。今後、高齢者の単身・夫婦のみ世帯が増加するのに伴い、生活支援ニーズはこれまで以上に拡大していく。

◎ 生活支援ニーズの増加に対してホームヘルパーを中心に介護人材が不足する

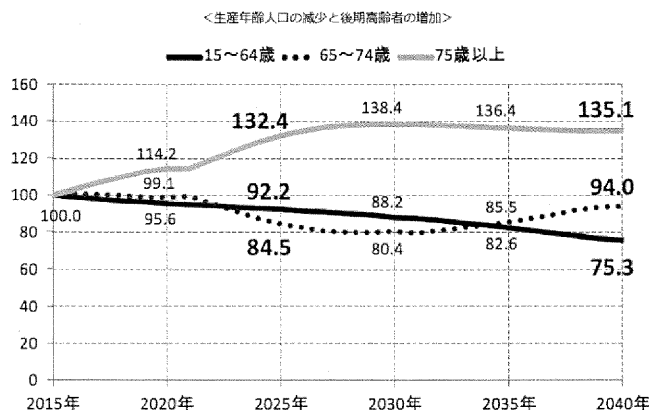
今後、認定者が増加する一方で、担い手である生産年齢人口は減少していく。増大する生活支援ニーズに対し、その大部分を従来通りホームヘルパーが担っていくことは人材面で立ち行かない状況になっていくことが予想される。

◎ 中重度の在宅要介護者を支える人材も強化が必要

→ホームヘルパーはより専門性の高い「身体介護」へ

中重度になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、「身体介護」の提供を強化していく必要がある。すでに在宅の人材不足が叫ばれる中、ホームヘルパーが身体介護に重点的に取組んでいくためには、生活援助を担う高齢者等の新たな担い手が必要となる。

<生産年齢人口の減少と後期高齢者>

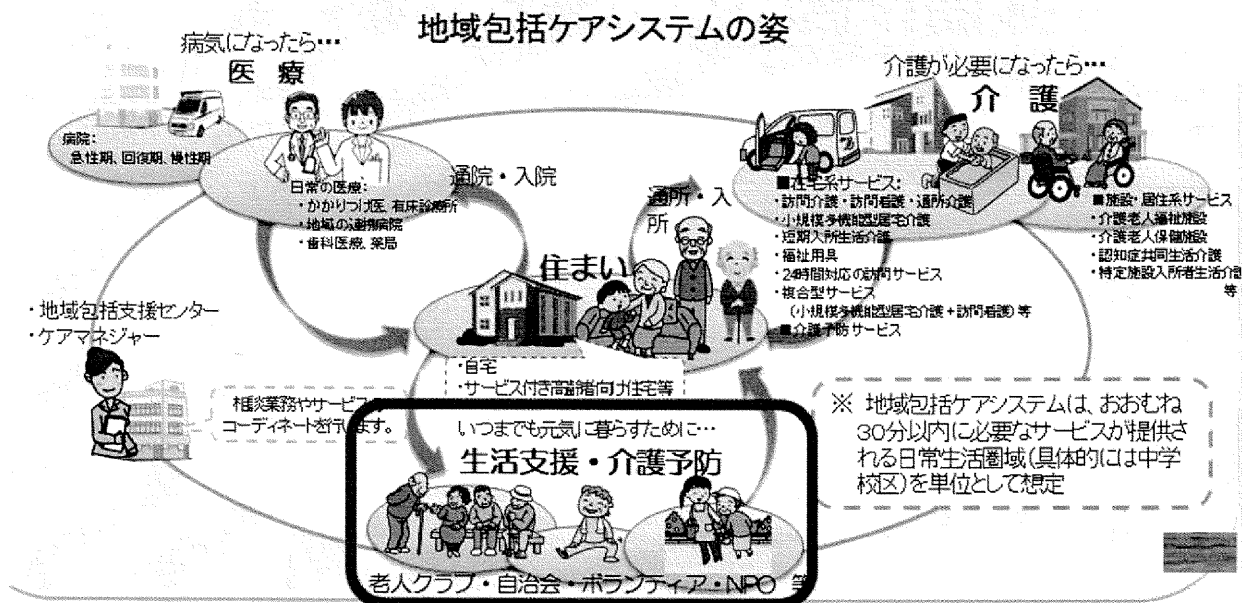


人生100年時代では、若い人が高齢者を支えることは難しい。

年齢に関係なく「おたがいさま」で、出来る人が出来る事で支え合うという発想を、子どもから高齢者まで持つことが必要。

出所) 国立社会保障人口問題研究所のデータをもとに三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成。
※2015年を100とした場合の2045年までの推計値

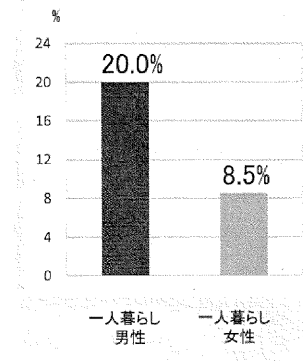
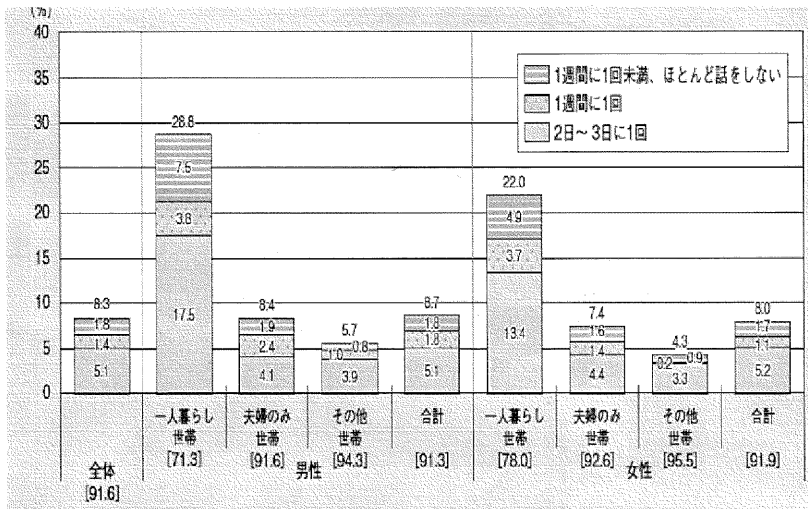
最後まで住み慣れた地域で暮らしたい ～地域包括ケアシステムの構築～



高齢者の孤立化が課題

■ 会話の頻度（電話やメールを含む）
話をしない割合

■ 困ったときに頼れる人がいない人の割合

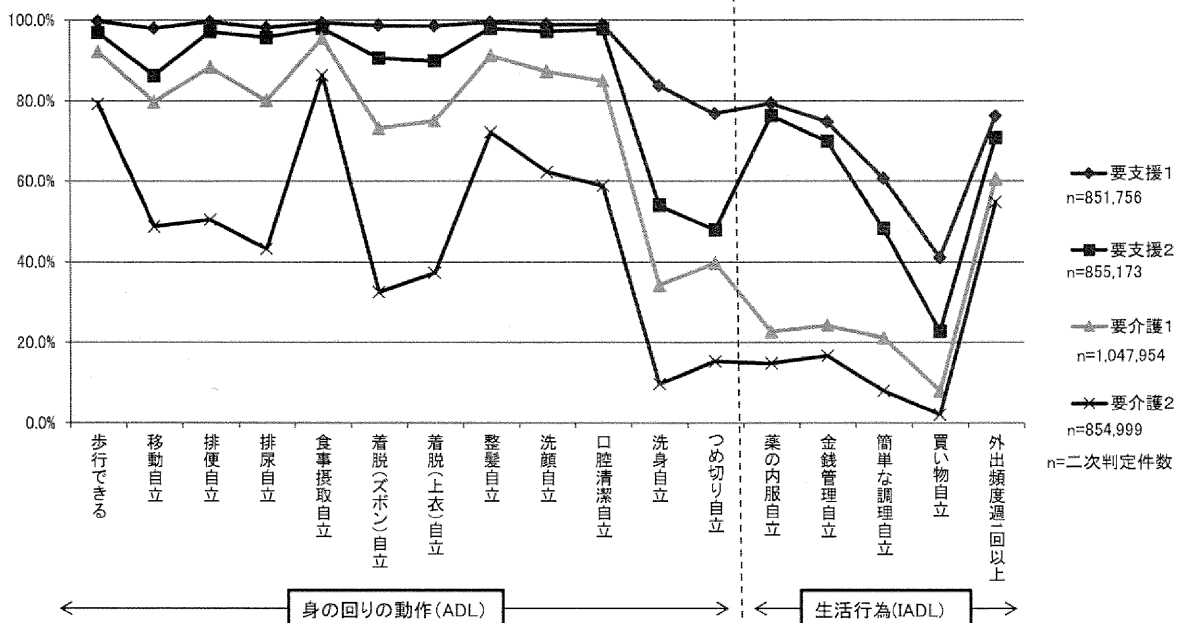


一人暮らし男性の3割、一人暮らし女性の2割が、「2~3日に1回」以下しか話をしておらず、また、一人暮らし男性は、困ったときに頼れる人がいないという回答が2割

資料: いずれも「平成27年版高齢白書」より一部編集抜粋(内閣府「高齢者の経済生活に関する意識調査 平成23年」)
対象は60歳以上の男女。[]内の数値は「毎日」と答えた者の割合

地域の支え合いで出来ることはたくさんあります

要支援者のほとんどは、身の回りの動作は自立しているが、買い物など生活行為の一部がしづらくなっている。

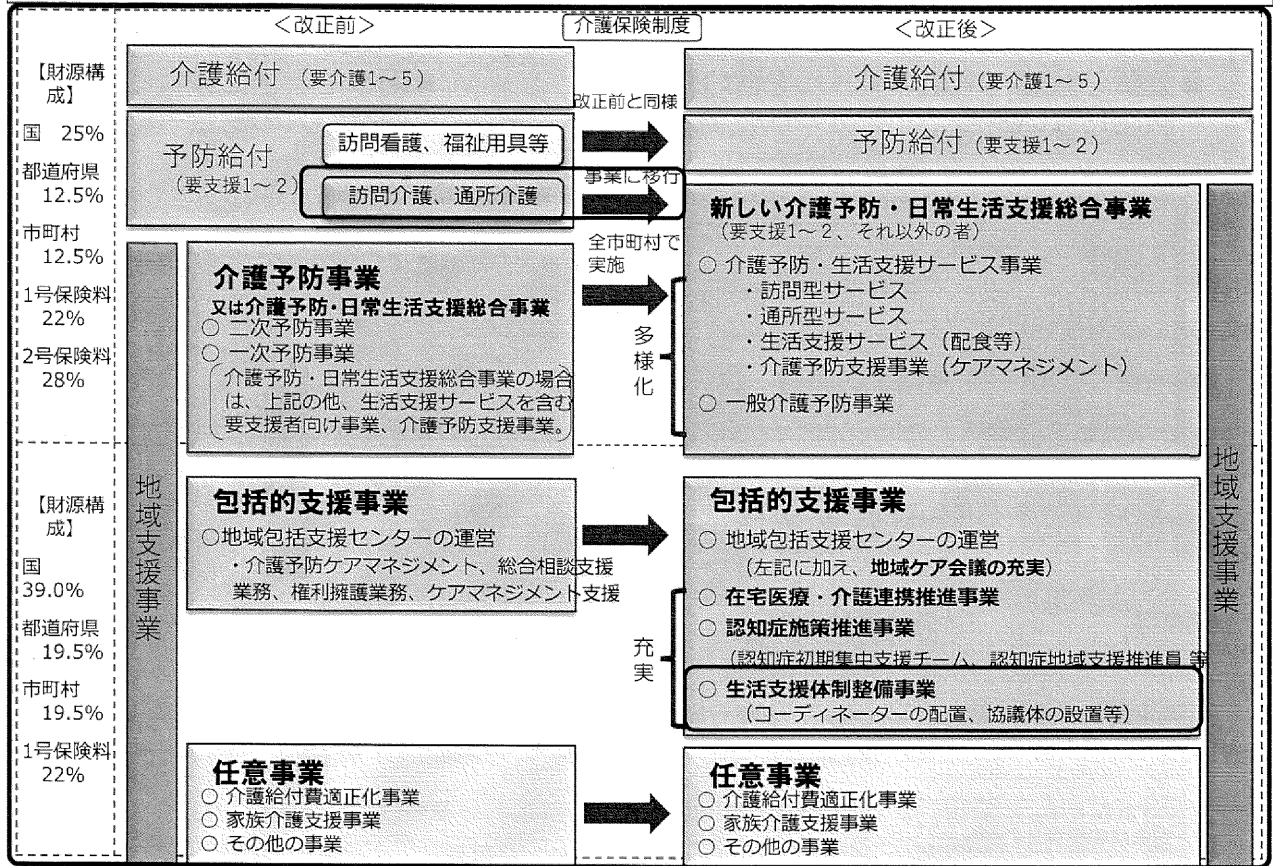


※1 「歩行できる」には、「何かにつかまればできる」を含む。

※2 平成23年度要介護認定における認定調査結果(出典: 認定支援ネットワーク(平成24年2月15日集計時点))

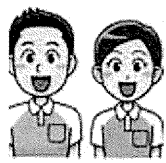
(要支援1~要介護2の認定調査結果 厚生労働省資料より)

介護保険制度の改正



目指す地域像の実現に向けた新しい制度の誕生

生活支援体制整備事業という地域の支え合いづくりを
応援する人とチームが出来ました。



**生活支援
コーディネーター**
(地域支え合い推進員)

地域の支え合いを
推進する人。

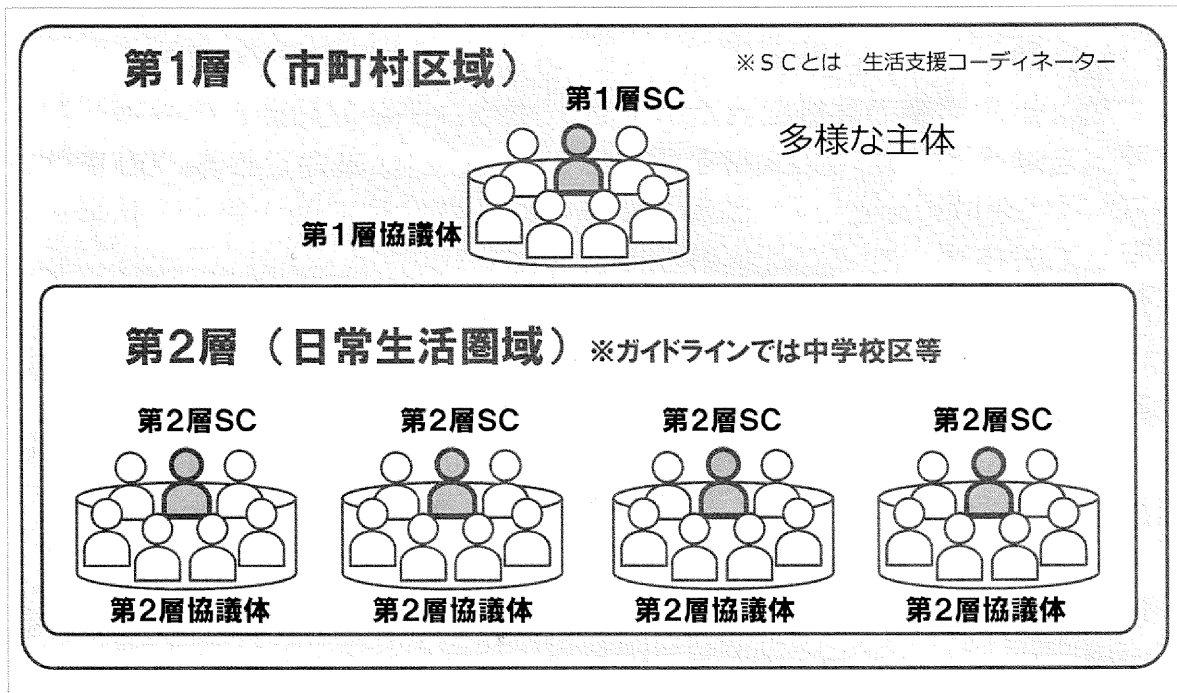
住民のみなさんの
“できる” “欲しい”
“やりたい”を応援します。



協議体

生活支援コーディネーターと
ともに、地域の支え合いを推
進するチーム。

協議体と生活支援コーディネーターの配置イメージ



9

- 生活支援体制整備事業の考え方
(ガイドライン)

第1 (総合事業の実施)に関する総則的な事項 1 事業の目的・考え方

(1) 総合事業の趣旨

○ (略)

○ また、総合事業の実施に当たっては、ボランティア活動との有機的な連携を図る等、地域の人材を活用していくことが重要である。60歳代、70歳代をはじめとした高齢者の多くは、要介護状態や要支援状態に至っておらず、地域で社会参加できる機会を増やしていくことが、高齢者の介護予防にもつながっていく。できる限り多くの高齢者が、地域で支援を必要とする高齢者の支え手となっていくことで、より良い地域づくりにつながる。

・ このため、総合事業の実施主体である市町村は、地域支援事業に新たに設けられた生活支援・介護予防サービス（以下「生活支援等サービス」という。）の体制整備を図るための事業（法第115条の45第2項第5号）（以下「生活支援体制整備事業」という。）を活用しながら、地域において、NPOやボランティア、地縁組織等の活動を支援し、これを総合事業と一体的かつ総合的に企画し、実施することが望ましい。

(厚生労働省介護予防・日常生活支援総合事業のガイドラインより抜粋) 11



第3章 市町村を中心とした生活支援・介護予防サービスの充実等 4 住民主体の支援活動等の推進

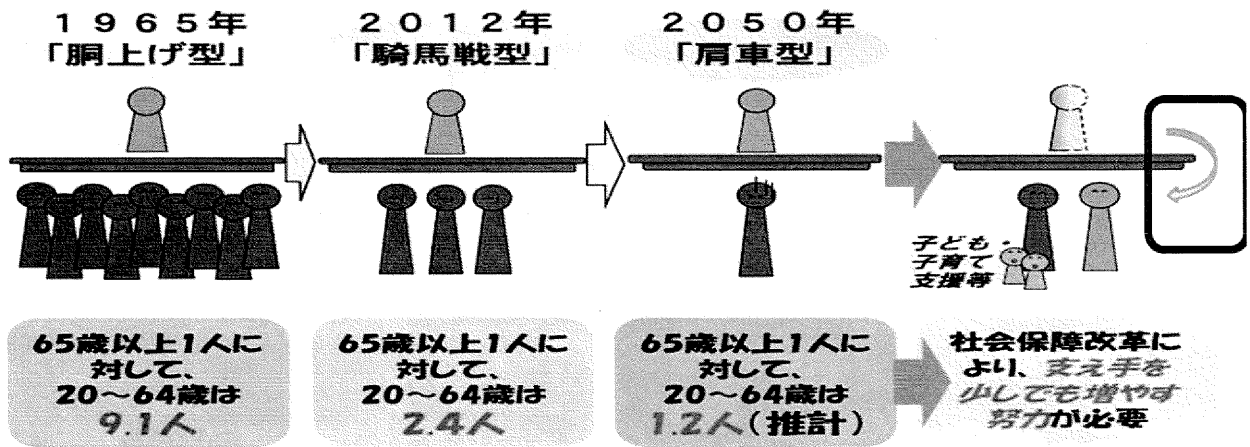
(3) 高齢者の社会参加による介護予防等の推進

- 高齢者が社会参加することや、社会的役割を持つことは、高齢者の生きがいづくりや、介護予防の効果が期待できることから、生活支援コーディネーターや協議体の取組においては、新しいサービスの創出だけでなく、元気な高齢者をはじめとした、地域の高齢者の活躍の場を創出するという観点が重要である。
- なお、高齢者の活躍の場は、総合事業のサービスの担い手としてだけでなく、障害者施策における就労移行支援事業所、就労継続支援事業所での活動や、子ども食堂での活動など、高齢者施策に限られない広い視野で検討を行うことが重要である。



生活支援体制整備事業の背景

「肩車型」社会へ



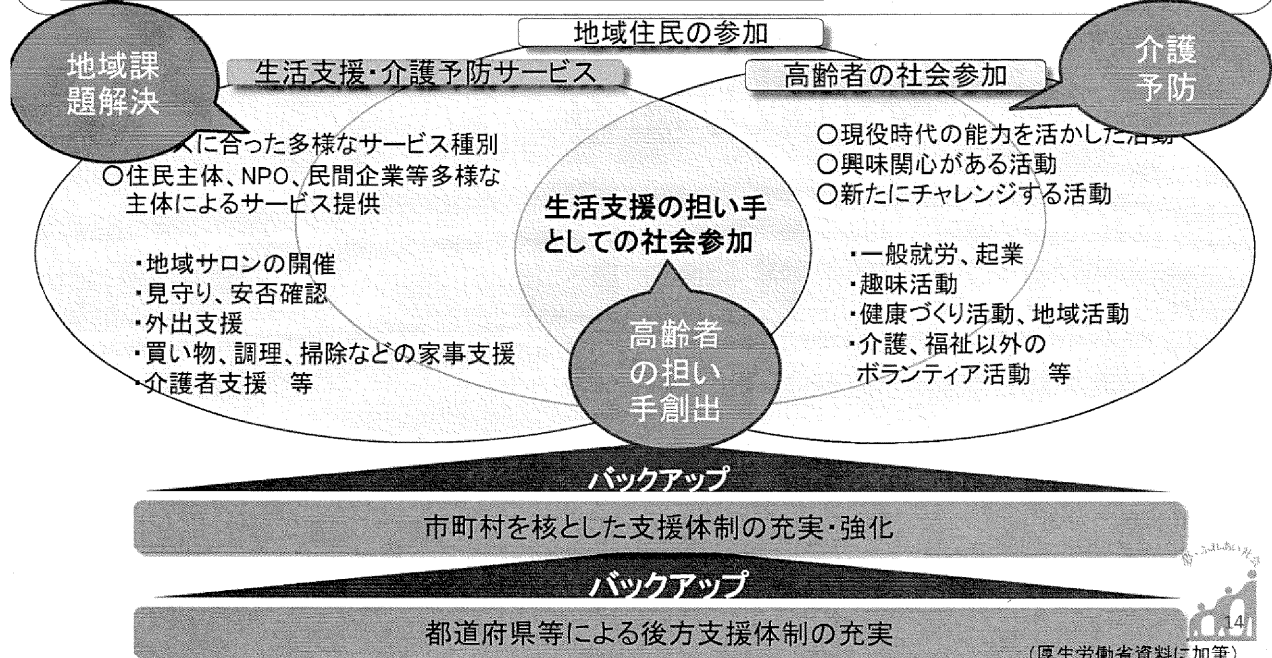
(厚生労働省資料より抜粋)

- 生活支援体制整備事業は、①「上にのらない」②「下を増やす」の2つを目指す。
- ①→高齢者の社会参加を促し、介護予防につなげ、介護を必要と出来るだけ予防する。
- ②→地域に必要な活動で、住民が主体的に取り組もうとする活動を応援し担い手を増やす。

(図は厚生労働省資料より抜粋、注釈は加筆)

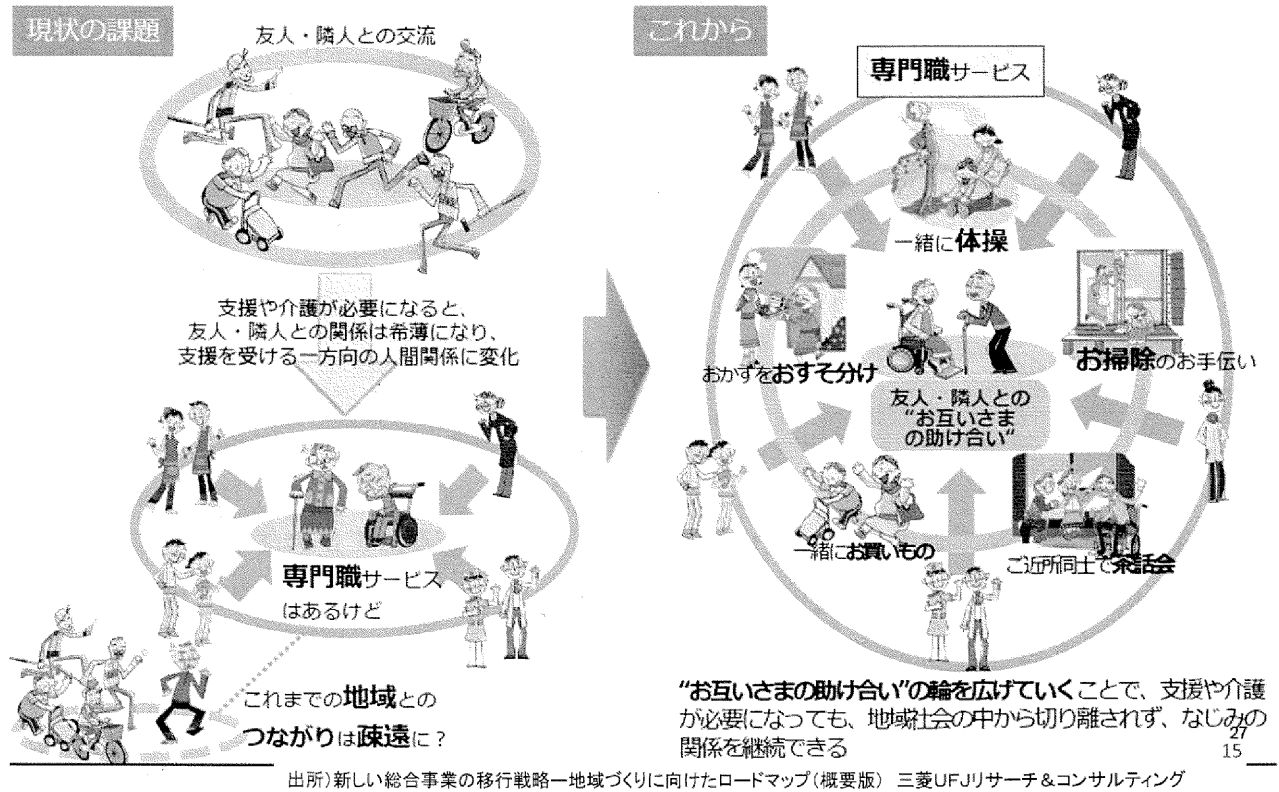
生活支援・介護予防サービスの充実と高齢者の社会参加

- 単身世帯等が増加し、支援を必要とする軽度の高齢者が増加する中、生活支援の必要性が増加。ボランティア、NPO、民間企業、協同組合等の多様な主体が生活支援・介護予防サービスを提供することが必要。
- 高齢者の介護予防が求められているが、社会参加・社会的役割を持つことが生きがいや介護予防につながる。
- 多様な生活支援・介護予防サービスが利用できるような地域づくりを市町村が支援することについて、制度的な位置づけの強化を図る。具体的には、生活支援・介護予防サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化などを行う「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」の配置などについて、介護保険法の地域支援事業に位置づける。



(厚生労働省資料に加筆)

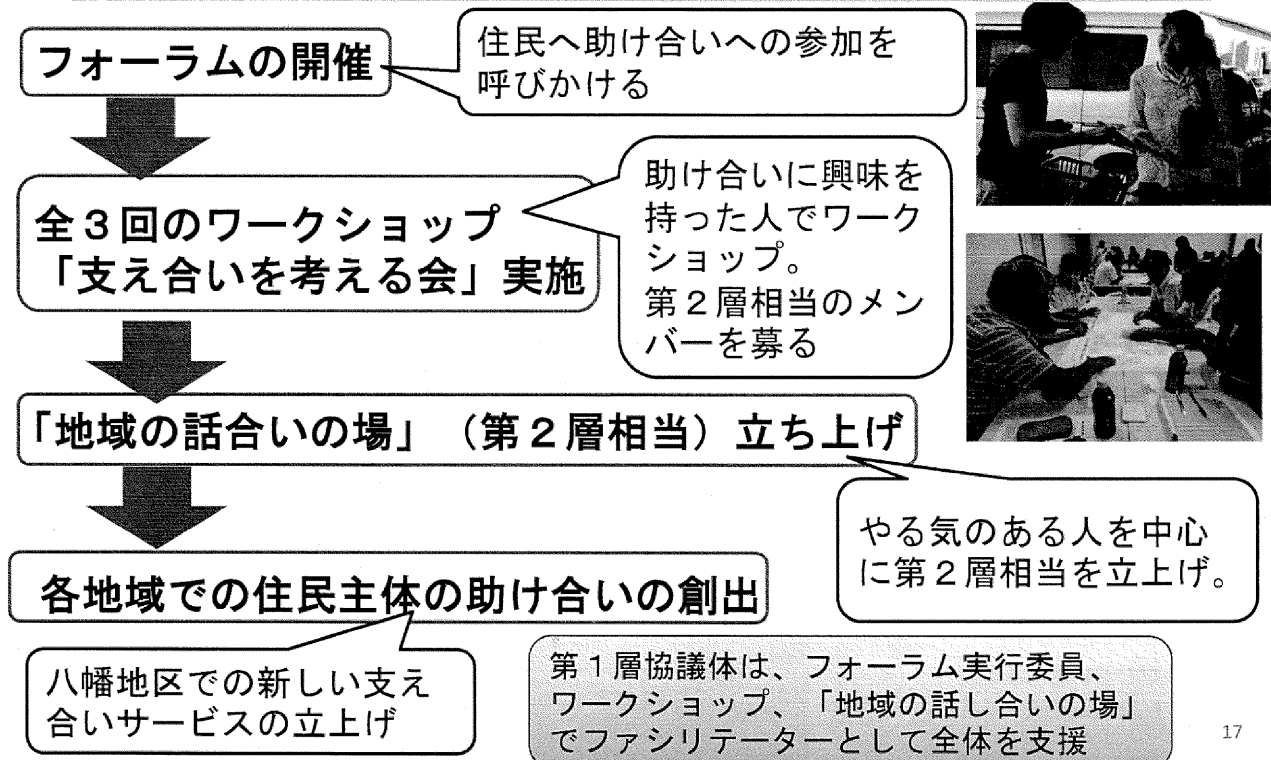
最後まで地域で暮らすには ～「お互いさま」の助け合いを広げましょう～



【事例】

- 第2層協議体発足までの経過と発足後の取り組み

生活支援モデルの取組手順



17

フォーラム開催

【目的と効果】

- ・第1層協議体の結束を強め、地域の方々に協議体を周知する機会とするため、第1層協議体構成員がフォーラム実行委員となり取り組んだ。
- ・役割を持つことで、構成員にフォーラムへの関心と責任感と主体性が出てきた。

[第1層協議体が積極的にチラシ配り]

[役割を話し合う実行委員]



【フォーラムの様子】

川島町は6か村が合併してできた町で、比較的人口が密集して大型店舗もある地域と、昔ながらの田園風景が広がり、人家が点在している地域から成り立っている。このような地区のベースが違う状況を踏まえながら「自分らしく生きられる 福祉のまち かわじま」の実現に向けて、住民主体の支え合い助け合いの地域づくりの大切さややりがいと一緒に考えた。



500名定員のところ
550名もの来場者がありました！



登壇し「私達が助け合いをすすめていきます」と宣言¹⁸

フォーラムで呼びかけ 助け合いに共感した住民で勉強会を開催

フォーラムのアンケートで参加者を募り、全3回の「助け合いを考える会」を開催

◇第1回

開催日：平成29年9月14日

内容：目指す地域像から
標語を作成

◇第2回

開催日：平成29年9月28日

内容：地域の課題と必要な活動
を話し合う

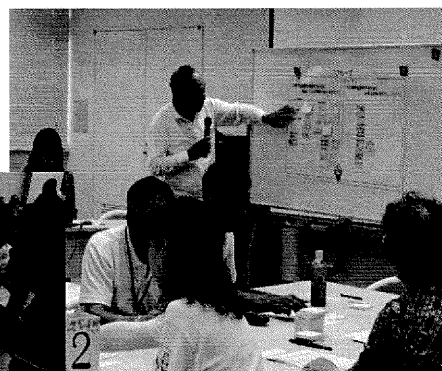
◇第3回

開催日：平成29年10月12日

内容：活動創出に向けた地域
の話し合いの場の構成員
の検討

【目指す地域像の標語】

- ◇笑顔であいさつ きずなの強い
仲良し地域
- ◇声をかけあい 助け合い
明日も元気で また会おう
- ◇花いっぱい 笑顔いっぱい
気軽に交流できる
助け合いのある地域



【グループワークを実施】 19

元気が一番やつほ



支えおっぺし隊なかやま



えんこしょ♡いぐさ



ささえ愛出丸



町長を囲んで
みんなで支え合う町川島へ



ホットコミ みほや



おみの支援隊



「地域の話し合いの場」
(第2層協議体)
メンバー集合写真

ともいき八幡



2018年2月28日
第4回地域の話し合いの場
にて

現場視察の様子

日時:平成29年12月19日

参加者:地域の話合いの場(第2層相当)リーダー・副リーダー、第1層協議体

視察先:羽生市 川俣地区「生活支援活動拠点(ささえながら)」

川島町 八幡「コミュニティサロン八幡(パティオ)」

羽生市 (ささえながら)



↑ 体操終了後の
和やかな語らい
← 関係者から熱心に
話を伺う参加者

川島町 (パティオ)



空き家を活用したサロン
パソコン・麻雀、将棋など
様々な活動を展開中

参加者からのコメント

- 中心人物の人柄を勉強させてもらった。
- 今までモヤモヤしていたものが現場を見たり、話を聞くことで少し晴れてきた。
- イメージがわいてきた。頭で考えるより行動に移していきたい。
- 川島町にもベースはある。応用していけばいいことが分かった。

21

第2層協議体の例～埼玉県川島町

出丸地区の取り組み

平成31年2月26日

リーダー 黒図光男

出丸地区

◇愛称『ささえ愛^{いでまる}出丸』

◇愛称に込められた思い

最後まで地域で暮らせるように、地域の方々による「支える愛」で元気で明るい地域づくり

◇活動開始の理由

困りごとを把握し、できることをみんなで考えていきたい

◇活動開始まで

アンケート実施の思い

みなさんにとって必要な活動は何か？
を聞きたくて、出丸地区全体をメンバーが
手分けしてまわりました！

対象者 出丸地区住民で75歳以上の方

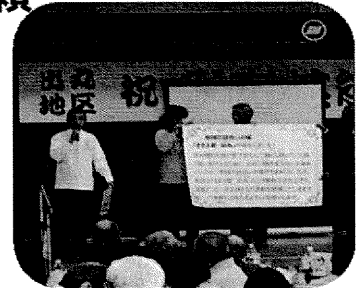
方法 推進メンバーが訪問し、聞き取り調査

回答者 203名

内容 4項目（家事一般、手軽なお手伝い、趣味・特技、交流）を支えられる側と支える側の双方向から聞き取り

アンケート調査に先立ち

- ① 出丸地区全戸に区長を經由した回覧依頼
- ② 出丸地区敬老芸能祭で参加者にアンケート調査への協力依頼



前向きな意見が聞かれました

アンケートを終えてメンバーの感想

- ◎ アンケートをきっかけに、久しぶりに訪問ができました。
- ◎ 訪問を喜んでもらえ、長い時間話し込んでしまった家もありました。

実施結果 NO.1 【やってもらいたいこと】

① 家事一般

・部屋の掃除	0.2%
・遠方へのお買い物	0.4%
・その他	0.2%
・不要	99.2%

※現状、不自由なく暮らしているので、不要との意見がほとんどを占めている。

② 手軽なお手伝い

・庭の掃除・除草	6%
・家具等の運搬	7%
・その他	24%
・不要	63%

※簡単なお手伝いを望んでいる傾向にあるが、不自由なく暮らしているのが現状である

③ 趣味・特技

・刃物とぎ	5%
・野菜づくり	9%
・その他	18%
・特になし	68%

※野菜作りが9%になっているが、それ以外はばらけている。

④ 交流

・映画鑑賞	5%
・近所の人とお茶・お喋り	15%
・その他	19%
・不要	61%

※回答はばらけているが、近所の人とお茶・おしゃべり、映画鑑賞が多かった。

調査結果

何かをしてもらいたいという意見は少なかった。

実態調査 NO.2 【してあげられること】

①家事一般

・部屋の掃除	0.04%
・洗濯物の取り込み	0.06%
・その他	0.07%
・できない	99.83%

※生活エリアへのお手伝いは難しいと思われる。

②手軽なお手伝い

・庭の掃除・除草	2.0%
・電燈の交換	2.5%
・その他	5.4%
・できない	90.1%

※電燈の交換、庭の掃除・除草、花木の水やりなどを合わせて、10%の方が協力可能である。

③趣味・特技

・刃物とぎ	3.4%
・野菜作り	4.4%
・その他	3.0%
・無し	89.2%

※趣味特技を教えてもいい人は10%程度である。

④交流

・一人の時一緒にいる	3%
・朝、夕の安否確認	3%
・その他	12%
・不要	82%

※交流会を開催するにあたり18%の方に協力してもらえる。

総合結果

☆お茶・お喋りを望む声が多いことから、地区全体の方を対象にお喋り会を開催していく。☆

◇活動内容

※アンケート結果を踏まえ出丸地区全体での活動

なつかしの映画鑑賞会・なつかしの昭和歌謡歌おう会・皆で楽しくゲームで遊ぼう

活動日 不定期開催

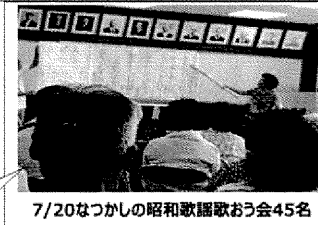
推進メンバーが開催の案内を持参し
お誘いに行きます

場所 出丸公民館

費用 100円（飲み物代）



6/7 なつかしの映画鑑賞会 53名



7/20なつかしの昭和歌謡歌おう会45名



映画楽しかった

久しぶりに大きな声で歌った



9/28皆で楽しくゲームで遊ぼう 30名

他地区の人と話ができ、うれしかった！

◇区ごとの活動（各集会所）

公民館まで行くことが困難な方のために集会所での活動を行いました。

<10/2 1区集会所 >



★講演会・ビンゴゲーム
公民館での開催に参加されていない人が来て
くれました



<11/22 2区集会所 >



★ハッピー体操・健康の秘訣
※他地区の推進メンバーによるお話し

「自分の話が役に立
つのであれば喜んで
行きますよ」

<12/7 3区 出丸公民館 >



推進メンバー手作
りの「すいとん」
に舌鼓！

★ゲーム・すいとんを食べよう会

地域をこえて推進メンバー同志も
助け合い



埼玉県川島町2019年2月「活動発表会」発表資料より抜粋

29

◇今後の活動

- ①定期会議の開催…毎月第3水曜日に定例会議を開催
- ②区ごとの活動継続…1～5区までを一巡したところで、今後の活動を検討
- ③目指す地域…昔ながらの近所の方々による縁側でのお茶飲み会のよ
うに、近隣での関わりができる地域を目指し活動を継続

◇活動の感想

地域を更に良くしていきたいというメンバーの強い思いから活動がスタート。
みんなで協力して取り組み、参加者のたくさんの笑顔がやりがいにつなが
りました。

埼玉県川島町2019年2月「活動発表会」発表資料より抜粋

30